

- 挑戦するコミュニティ（挑戦する教師の姿は子どもの挑戦を触発し、そうした各学校の挑戦は、挑戦する教育委員会によって支えられている）。教師の学びと子どもの学びは相似形、学校はコミュニティゆえに。それぞれの学校の挑戦と自走を励ます「教育委員会実践」に光を当てるきっかけに。
- 一人一台端末の先に重要なのはゴールとコンセプト。
- オンラインをはじめとするICT活用は、これまで救えなかった子どもを救うために。子どもたちや教師たちの学びの機会を保障し続けるために。
- 一人一台端末の先に問われるのは授業観（新たなつながりとかかわりの創出がすべての子どもたちに質の高い学びをもたらす）。
- 条件整備のゴールをどこに設定するのか。教具論？文具論？学校論？
- コロナ禍で新たに問題が発生したのではなく、これまでの問題があぶりだされた。その問題と向き合い変えていくことが重要。
- コロナ禍の臨時休校期間中のさまざまな経験や気づきをもう一度振り返り、そこから学びつくすこと。経験学習を通して未来の学校のヒントを得、流動的な状況に対応するための引き出しを増やす。